

第 36 回JC杯少年野球大会細則

1. 試合の運行に関する統制及び審判は、宮古野球連盟にて行う。
2. 試合は、高学年7回90分ルールとする。3回以降10点差、5回以降7点差以上の場合はコールドゲームとする。低学年は5回60分ルールとし、3回以降7点差以上はコールドゲームとする。ただし、決勝戦は、タイムコールド及びコールドゲームを適用しない。
3. ベンチは、組み合わせの若い番号を一塁側とする。
4. 所定のイニング数、もしくは所定の時間終了後、同点の時は、特別ルールを行う。
その場合、継続打順とし前回の最終打者を一塁走者とし二塁・三塁の走者は順次前の打者として、無死満塁の状態にして行う。尚、勝敗が決するまで、エンドレスとする。
5. 投球練習は、初回7球、2回目より3球とする。
6. 投手の投球制限について、児童の健康維持を考慮し、高学年投手は1日7イニング、低学年投手は1日5イニングまでとする。
投球イニングについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと数える。
7. 試合中は、ゲームに直接関係のない応援の父兄はベンチに入れない。
8. ファウルボールは、直ちにベンチ側に近いチームが取りに行くこと。
9. 定められた者以外は、ベンチの緑石、白線よりみだりに出ないこと。
10. 楽器を使用したり相手チームを誹謗したり、やじったりしないこと。本大会は、青少年健全育成が最大の目的であるので、品位ある言動に心がけるようにすること。
11. 選手及び監督・コーチの履物は、運動靴又はゴムスパイクまでとし、それ以外のものは、使用しないこと。
12. 選手交代は、必ず監督が球審に申し出る事。
13. 抗議は、監督と主将のみとする。
14. 攻守交代は、敏速に行う。打者は、速やかに打席に入る。
15. 捕手は危険防止のため、全日本軟式野球連盟公認マーク入りのマスク・スロートガード・レ　　ガース・プロテクター・捕手の保護用のヘルメットを着用すること。打者・走者・次打者・ベースコーチとも公認マーク入り両耳フラップヘルメットを着用すること。
16. 捕手及び選手の危険予防及び健康管理については、チームにおいて十分に留意すること。
17. 投手が変化球を投げることを禁止する。投げた時のペナルティは競技者必携 32～34 項を参照するものとする。
18. 高学年の選手を、低学年チームの試合に出場させた場合は、失格とする。
低学年の選手を高学年に出場は認めるが、二重登録が、判明した場合は、試合の途中でも失格とする。
19. 試合に勝利したチームの登録メンバーがグラウンド整備を行う。
20. 試合後 30 分は休憩を設ける。ただし、両チームの協議の結果で変更も認める。
21. チームの責任は、責任者において一切負うものとする。
22. 試合中の不慮の負傷については、応急処置は施すが、それ以外の責任は負わない。